

邑南町デジタル変革ビジョン (邑南町DX)



令和4年3月策定
令和8年3月改定
情報みらい創造課

1. はじめに.....	3
2. 邑南町DX基本方針.....	3
3. 邑南町DX 重点項目.....	4
4. 邑南町デジタル変革（邑南町DX）概略図.....	4
5. 国の重点項目について.....	5
6. アクションプラン.....	5
7. 計画期間.....	5
8. 推進体制（役割）	6
（ア）体制図.....	6
（イ）体制表.....	7
9. DX事業推進の流れ.....	8
（ア）事業フロー（アクションプラン作成まで）	8
（イ）事業フロー（アクション実施）	8
10. 邑南町自治体DXロゴ.....	9
《参考資料》	10

1. はじめに

邑南町は、「デジタル社会形成基本法（令和3年法律第35号）」の基本理念にのっとり、本ビジョンを策定します。

社会は、昨今のコロナウイルス感染症やゲリラ豪雨による災害など、予測不能な時代と言われています。これからの自治体には、予測不能な事態に柔軟に対応し、すばやく住民のニーズに応えていく組織づくりが求められます。しかし、自治体がこれまでの人員で従来どおりの行政サービスを続けていては、社会の変化に的確に即応（=アジャスト）することは困難です。

これからの時代に対応するためには、既存の行政サービスの仕組みの見直しや、新たな行政サービスの設計においても、サービスのユーザーである住民本位で物事を考える必要があります。さらには、予測不能な事態にも迅速に対応できるよう、システムユーザー（職員）の目線に立ちシステムの改善や業務の効率化を実施し、人的リソースを確保するとともに、職員の意識改革やスキル向上を図ります。

昨今いわれている“DX（=Digital Transformation）”は、単に「デジタル化を推進する」という意味ではありません。本当に利用者の役に立つサービスを提供するため、デジタル技術の浸透に対応して「利用者本位のより良い変化」をしていくことこそがその本質です。本ビジョンは、邑南町デジタル変革（邑南町DX）の基本的な考え方を定め、邑南町職員、関係者が共通の認識のもと、協力し合って実践していくことを目指します。

2. 邑南町DX基本方針

◎ユーザー（町民・職員）が便利さを実感できる事業を実施します。

- ・ユーザー中心の考え方で推進します。
- ・システムや制度を「作って終わり」ではなく、成果品による効果を重視します。
- ・前例主義を脱却し、新たな挑戦を歓迎します。

◎既存の業務や行政サービスの仕組みを見直し、業務を効率化します。

- ・システムはシンプルに、まずは簡単で小さなことから始めます。
- ・業務量が多く、単純な作業の省力化を図ります。
- ・既存のシステムを取捨選択し、本当に使いやすいものを残して改善していきます。

◎完成形のない、終わりのないプロジェクトとして取り組みます。

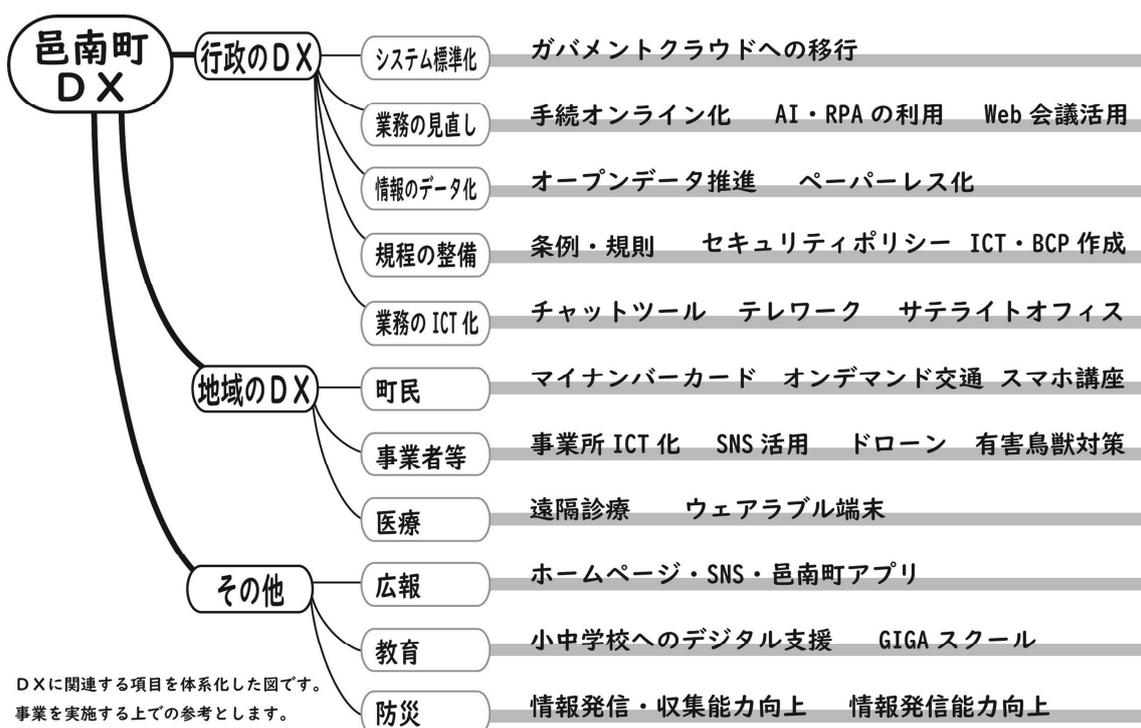
- ・社会の目まぐるしい変化に対応して、組織として変わり続けます。

3. 邑南町DX 重点項目

- 業務を見直し、誰もが利用しやすい行政窓口の実現
- デジタルデバイド対策やキャッシュレス決済の普及によるスマホ・タブレットの利用者増加
- DX 基盤整備（インターネット環境の改善及び通信インフラの拡充）
- 学校等におけるデジタル教育の推進
- 職員のデジタルスキル向上、DX 人材育成

4. 邑南町デジタル変革（邑南町DX）概略図

DXに関連する項目を体系化した図です。これがすべてではなく、ユーザーにとって必要なことを考える上での参考とします。



5. 国の重点項目について

国民の DX を推進するため、国が求める自治体 DX の重点取組項目は、次のとおりです。

邑南町においても、この重点取組項目についても、積極的に検討します。

- (1) 自治体の情報システムの標準化・共通化
- (2) マイナンバーカードの普及促進
- (3) 行政手続のオンライン化
- (4) AI・RPA の利用推進
- (5) テレワークの推進
- (6) セキュリティ対策の徹底

6. アクションプラン

このビジョンに基づき、年度ごとにアクションプラン（別紙）を定めます。
スピード感をもって対応するため、アクションプランの更新は随時とします。

7. 計画期間

このビジョンは、2026 年度末までとします。

【用語説明】

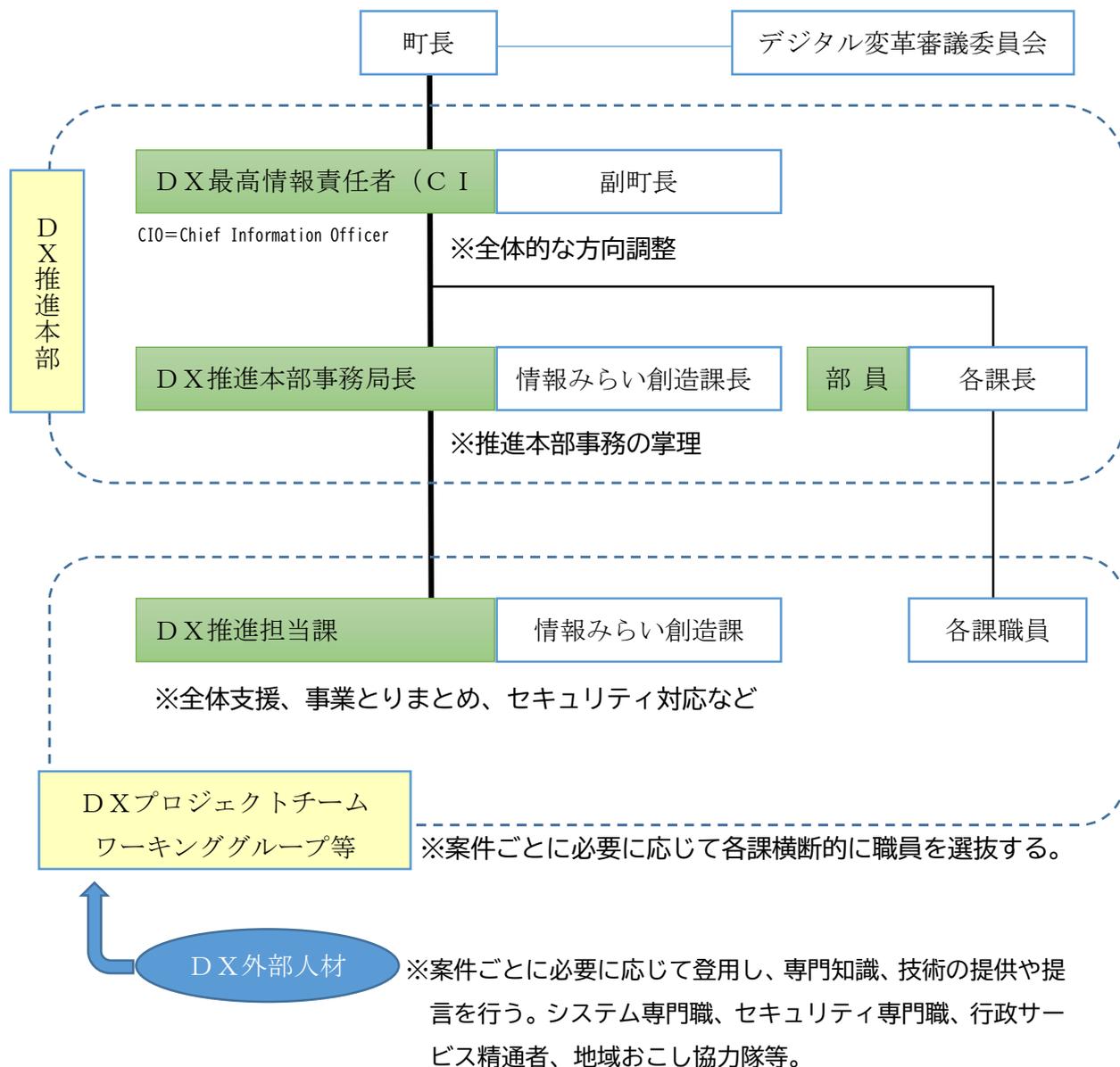
※AI…人工知能（Artificial Intelligence）の略です。

※RPA…ロボティックプロセスオートメーション（Robotic Process Automation）、通称RPAは、これまで人間のみが対応可能と想定されていた作業をAIや機械学習を活用して代行・代替する取り組みです。

※ICT-BCP…ICT（Information and Communication Technology）いわゆる情報

8. 推進体制（役割）

（ア）体制図



(イ) 体制表

区分	役割	構成
DX 最高情報責任者 (CIO)	全庁的な DX 推進の方向性を調整する	副町長
DX 推進本部	DX 推進のための基本組織	課長会議 企画調整会議
DX 推進本部事務局長	DX 推進本部に関する事務を掌理する	情報みらい創造課長
デジタル変革 審議委員会	DX に関する取組について、外部の視点から客観的に評価し、意見を具申する。	別に定める (有識者・公募委員等)
DX 推進担当課	<p>【DX 推進】</p> <p>DX の取り組みを全体的に支援し、DX 関連事業のとりまとめを行う。</p> <p>【情報システム】</p> <p>DX に関わるシステムに対して支援を行う。セキュリティ対策。</p>	情報みらい創造課
DX 外部人材	必要に応じて登用し、DX に必要な専門知識、技術の提供や、提言を行う。	システム専門職 セキュリティ専門職 行政サービス精通者 地域おこし協力隊等

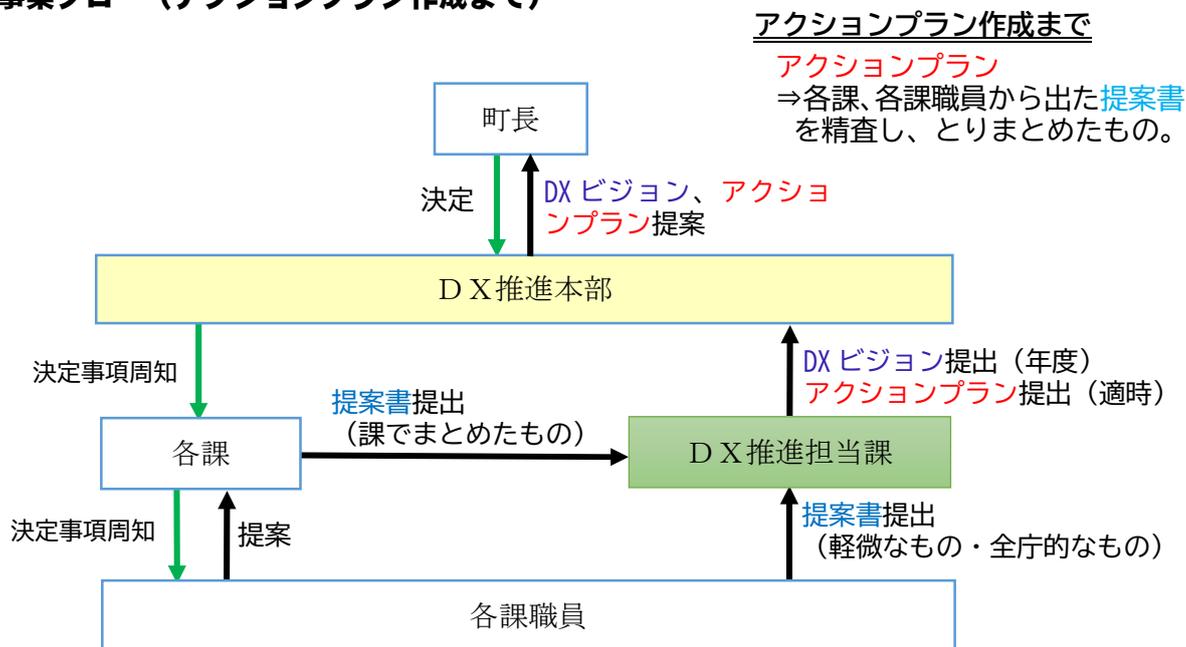
◎全課…各課が所管する業務に関する DX への取り組みを企画、提案する。

◎全職員…担当業務にとらわれず、普段何気なく感じる不便さから DX につながる取り組みを企画、提案する。

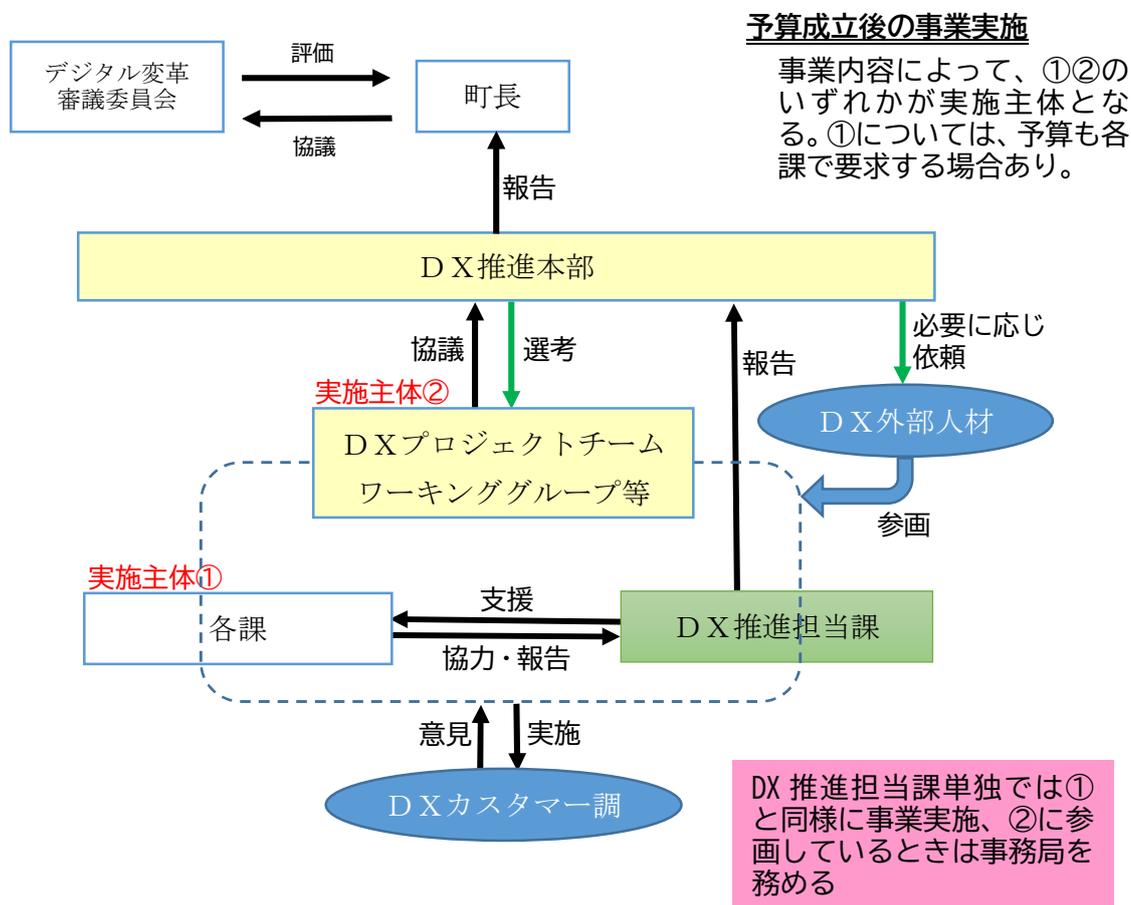
DX カスタマー調査	必要に応じて町民モニターなどから、システムや手続きなどについて意見聴取し、ニーズを把握する。
------------	--

9. DX 事業推進の流れ

(ア) 事業フロー（アクションプラン作成まで）



(イ) 事業フロー（アクション実施）



10. 邑南町自治体DXロゴ

DX 関連事業の広報などに利用してください。



《参考資料》

DX (Digital Transformation) とは (2004年、スウェーデン ウメオ大学エリック・ホルターマン教授)

=デジタル技術が浸透することで人間のあらゆる面で引き起こす、あるいは良い影響を与える変化

DXの目的: 「ユーザー中心」に視点をシフトし、
サービスの利用者満足度 (User Experience=ユーザー体験) を向上させる
※ 「ユーザー」とは、組織の内外を問わない。

DXの方法: デジタル技術の浸透に適応し、柔軟性がある対応力の高い組織文化を醸成する

これまで	DX ⇒	これから
サービスを「つくる側」中心		サービスを「受け取る側 (ユーザー)」中心
アウトプット (成果品) 重視		アウトカム (成果品による効果) 重視
予測に基づき制御可能		予測不能で再現性のない状態・予測不能性
作り手から受け手への一方向		グローバル化によりあらゆるものが双方向
長期間かけて全体計画を立案		短期間の変化に即応した段階別計画を順次立案
当初の全体計画に基づき実施		段階別計画を随時変更、中止しつつ実施
計画どおり遂行できる組織づくり		変わり続けることに対応できる組織づくり

予測不能性 (VUCA) : Volatility=変動性 / Uncertainty=不確実性 / Complexity=複雑性 / Ambiguity=曖昧性

◎ 「デジタル化」はすでに対応すべき環境 (または手段) であって、目的ではない。

DX 推進の3つの柱

1. 構造改革 …DX に対応する原資 (余力) を確保するための効率化
2. マインドセットの転換 …恒常的に変わり続けることに適応できる組織への転換
3. リカレント教育 …組織全体が常に知識や情報をアップデートしていく環境づくり

DX 推進組織の役割

1. サービスの作り手と共にプロジェクトを積極的に推進する (内部的視点・支援)
 - ▶ 必要に応じ政治的対応、技術的助言などを行う
2. 課題解決の観点からプロジェクトの方向性は正しいか、立ち止まらせる (外部的視点・監査)
 - ▶ 「ユーザー中心」に立ち返り、本当にユーザーの利便性に寄与するか確認
 - ※ 課題とは、理想 (あるべき姿) と現実のギャップ



やりやすいところから始める
小さなことから始める
システムはシンプルにする
状況が変わったら思い切って途中でやめ



小さな実績で、
まずは「DXは役に立つ」
という信用を得る!